

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第 54 号 / 2010 年 3 月 26 日発行

編集 / 医学研究科長

### 『研究雑感』

医療センター 福田孝昭 教授

学園紛争の真只中に学生時代を過ごした我々の世代は、ストライキ後の強制試験などもあり留年が多かった。教養から学部に進む時 47 人、学部 1 年から 2 年になる時 63 人が留年し、卒業は 3 年間にわたりそれぞれ三分の一ずつに分かれた。クラス会も、卒業が同じ時の同窓会よりも、入学した時が同じであるクラス会の方が参加者も多く賑わう。時代でもあろう、卒業時クラス会で大学院ボイコットが決議された。

さて、長崎の第一内科では、入局後一年間は大学で臨床研修を行い、臨床医としてのノウハウを学び、2 年目からは学外に出張となり、大学に戻り研究できるまで 5~8 年を要した。1 年目の研修医が病棟主治医として働いていたが、卒後 2~3 年目の直接指導する人材に不足をきたしていた。当時、病棟で実習する学生にかなりの勢力をつぎ込み入局勧誘に精を出した。そのおかげで、毎年平均 15 人が入局し、医局の隆盛を招くことができた。ただ、新研修医制度の導入により、地方の大学であることも相まって、最近は入局者の減少に歯止めがかからない状況にある。

話は戻るが、新しい教授の赴任もあり、卒後 3 年目の二人が大学院に入学した。この二人は、非常に優れており、たまたま第一内科のみが外来・病棟・医局・実験室が同じフロアにあったことも幸いし、研修医の指導、自分の実験など獅子奮迅の活躍であった。それ

から毎年二人ずつが大学院に入学し、病棟での臨床指導を含めてなくてはならない存在となった。彼らにはスーパーマンであることも要求されたし、務まらなかったでもあろう。二人のうち一人は卒後 13 年目に臨床医でありながら基礎系の教授となった。もう一人は助教授となったが、病気の為早逝してしまった。このような流れから、最初の二年間で論文を仕上げ、残り二年間は外国へ留学というのが一般的であった時代もある。短期間に論文を仕上げるためには、綿々と続く研究の継続と統一性が必要であろうと考える。

さて話は変わるが、私の直接指導者であった E 主任教授が今年退官になる。長崎でリウマチ膠原病グループを一人で立ち上げた先生で、私ともう一人がグループに加わった。私の 4 年先輩であったが、入局時には外国の論文を参考に、当時やっと測定ができるようになった T・B リンパ球を自分で測定されていた。もちろん試薬や研究機材も自身で調達してである。昼間は、病棟で臨床を行い、その後は、毎日夜 11 時頃まで実験室で色々な研究を行っていた。もちろん、土曜日曜もなく、夜のお弁当も持参だった。当初は、実験等を行うことに精いっぱい、論文もほんの少しであったが、次々にグループに参加する人も増え、10 年目頃より論文が順調に出始めた。この頃は、実験材料を東京から最終便で空輸して受け取り、朝方三時四時まで実験を行っ

ていた。これらの努力もあり、数多くの論文を基礎に26年目に教授に選ばれた。一人から始めて、グループを発展させ自身も教授になれたことは、本当に凄いことだと思う。人一倍の勉強と努力が実った良い例と思う。私の留学したNIHは、栄枯盛衰が激しく、常に研究室の工事が行われていた。研究費の足りないところは縮小され、研究費が多くなった所の思ったように実験室が改造されていたわけである。拡大するラボは、やはり土日もなく、夜遅くまで実験室の電気がついていてた。

基礎研究が臨床に役立った良い例は、関節リウマチに対する生物学的製剤の出現だと思う。リウマチの病態を研究するうちに、炎症性サイトカインが悪さをしていることが分かり、このサイトカインの働きを抑制するため

に、抗体製剤やレセプター蛋白が創出され、目覚ましい臨床効果を示している。最近では、Tリンパ球やBリンパ球の表面抗原に対する抗体製剤も治験されており、基礎研究が臨床に生かされた貴重な事例と考えられる。

医師である以上、人に役立つ研究でありたい。



## 事務通信



### 個別最適医療系皮膚細胞生物学の新設について

博士課程個別最適医療系の専攻科目として、皮膚細胞生物学を平成22年度より新設いたします。本科目には、自己免疫水疱症、皮膚遺伝病、皮膚免疫学、毛髪研究に重点を置いた授業科目が組み込まれており、平成22年1月1日に本学附置施設として開設した皮膚細胞生物学研究所が中心となって、基礎皮膚科学研究部門と臨床皮膚科部門が一体となった総合的・先端的な皮膚細胞生物学の研究と診断法・治療法の開発に着手できる人材育成を目指します。

#### ◆博士課程・修士課程在籍学生の皆様へ

### 平成21年度成績報告並びに平成22年度履修希望調査実施について

博士課程・修士課程在籍学生の皆様を対象に、平成21年度の履修結果ならびに成績報告書を3月下旬から4月上旬に配布する予定です。併せて、各自の履修状況を踏まえ、平成22年度に履修する科目を決定していただき、履修登録を行うための「平成22年度履修希望調査」を4月上旬に実施する予定です。書類が届きましたら、速やかに当該年度の履修登録科目を決定し、医学部事務部教務課までご提出下さい。なお、平成22年度大学院カリキュラムは4月上旬に配布予定です。今しばらくお待ち下さい。

※各課程の修了要件は以下の通りです。

● 修士課程

学 群	基礎科目	専 門 科 目	大学院 セミナー シリーズ	準専攻 科 目	選択科目
基礎医学・社会医学・ 分子生命科学・ 臨床看護学群	10 単位 以上	12単位以上 (演習4単位、論文指 導演習4単位を含む)	1 単位	講義4単位 以上	自身が履修した 以外の科目から 3単位以上
バイオ統計学群		30単位以上 (演習7単位を含む)			

学 群	共通科目	専攻分野	実習科目
臨床看護学群がん看護論 「がん看護専門看護師教育課程」	講義 10 単位	共通科目 8単位 専攻科目 6単位	6単位
臨床看護学群臨床基礎看護論 「感染看護専門看護師教育課程」	講義 10 単位	専攻科目 16単位	6単位

● 博士課程

(平成19年度までの入学者適用)

専 攻 名	専攻科目	選択科目	基礎科目
生理系・病理系・社会医学系	24単位以上	6単位以上	
個別最適医療系	24単位以上		6単位以上

(平成20年度以降入学者)

専 攻 名	専攻科目	選択科目	共通科目
生理系・病理系・社会医学系 個別最適医療系	20単位以上 (講義8単位、 実習12単位を含む)	4 単位	6単位以上

専 攻 名	コース名	専攻科目 (必修)	コース科目 (必修)	共通科目
個別最適医療系先端癌治療学 悪性腫瘍専門医養成ユニット	化学・薬物療法 専門医養成コース	8 単位	講義8単位、 実習16単位	6単位 以上
	放射線療法専門医 養成コース	4 単位	講義4単位、 実習16単位	
	緩和医療専門医 養成コース	4 単位	講義8単位、 実習16単位	

## 学生駐車場 2 次募集のお知らせ



大学院学生の皆様を対象に学生駐車場（7番駐車場）の2次募集を行います。申し込み希望者は下記に従って、期間内の手続きをお願いします。

1. 申込期間：平成22年4月8日（木）～15日（木）締切厳守
2. 募集台数：10台  
希望者多数の場合は抽選です。  
なお、通学距離が大学より片道2km未満の場合は申し込みできません。
3. 提出書類：駐車場使用許可願（※）・誓約書（※）・車検証コピー  
※印の書類については、医学部教務課窓口で受け取られるか、大学院医学研究科 HP (<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>) 在学生向け情報（学生掲示板）よりダウンロードして下さい。
4. 書類提出先：医学部事務部教務課：中村 まで
5. 使用開始時期：平成22年5月1日～平成23年3月31日
6. 使用許可通知：決定後、本人宛に通知します。
7. 料 金：20,600円

## 後期入学試験結果

2月16日に行われた後期入学試験の結果は下記のとおりとなっております。

	志願者数	受験者数	合格者数
修士課程	21名	21名	21名
博士課程	15名	15名	15名

### お詫びと訂正—休学時在籍料の納入について—

標記については、大学院ニュースレター第52号（平成21年9月30日発行）にて休学時在籍料の納入についてお知らせしておりましたが、この休学時在籍料は平成22年度大学院入学者からの適用となり、平成21年度以前の入学者には適用されません。学生、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げるとともに、ここに訂正させていただきます。

## 編集後記

今年度、修士課程16名、博士課程22名が大学院を修了されます。大半の方は社会人学生として、病院、企業、教育機関等で勤務しながら研究活動に励まれました。自身の更なるスキルアップを目指し、業務と学修を両立されるその意欲に毎年ながら驚かされます。次年度医学研究科には約50名の新入生を迎えます。意欲あふれる皆様に刺激を受けつつ、ご期待に添えるサポートを心掛けたい所存です。（中）